

## 7-10 陸生植物

陸生植物は、維管束植物、地衣類、蘚苔類、キノコ類を調査対象とし、植物相の状況、重要な種の生育状況及び注目すべき生育地について把握した。

### 7-10-1 植物

#### 1. 現況把握

##### (1) 調査概要

植物に係る調査内容は、表 7-10-1.1 に示すとおりである。

表 7-10-1.1 植物に係る調査内容

調査項目	調査方法	調査地点	調査時期
植物相	任意観察法	対象事業実施区域及びその周辺 200m	春季：令和3年5月27～28日 夏季：令和3年8月13日 秋季：令和3年9月29日～10月1日
植生	コドラート法	調査地域内に出現する植生タイプを考慮して24地点	春季：令和3年5月27～28日 秋季：令和3年9月29日～10月1日

##### (2) 調査地点

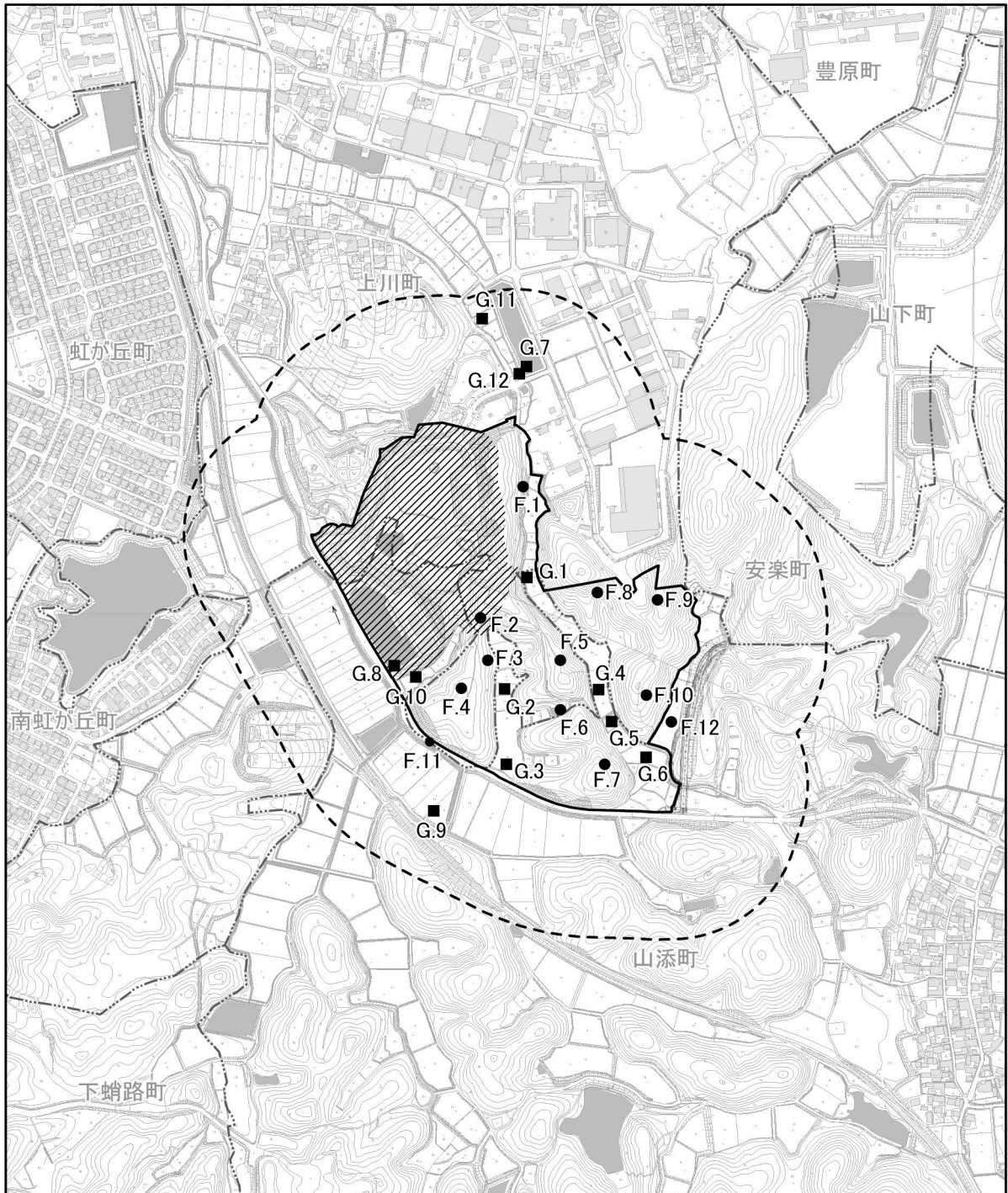
植物に係る調査地点は、図 7-10-1.1 に示すとおりである。







#### 2. 調査結果

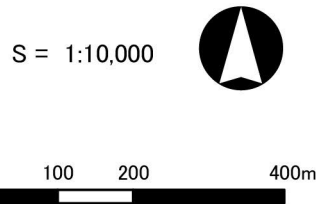
##### (1) 植物相

対象事業実施区域及びその周辺で確認された植物は、57 目 133 科 698 種であった。このうち、重要な種には 5 科 18 種、外来種は、特定外来生物に該当するオオキンケイギクが現最終処分場施設内で約 20 個体確認された。

対象地域は、広域的に見ると櫛田川左岸に広がる丘陵・農耕地域であり、対象事業実施区域及びその周辺では、コナラやスギ・ヒノキなどの二次林の他に水田耕作地、畑地などが広がっている。その一方で、公園、工場、現最終処分場など人工改変地も広く分布し、確認種の中には、植栽種や逸出種をはじめ、特定外来生物以外の外来種も多く見られた。また、現最終処分場の法面や林縁部、林内の山道周辺は、いわゆる「里地・里山」と言われるような手入れのなされた二次林が見られるのが特徴である。



- 凡例**
-  現最終処分場区域
  -  対象事業実施区域
  -  対象事業実施区域周辺200m
  -  町界
  -  ● 森林植生コドラート調査地点(F.1~F.12)
  -  ■ 草地植生コドラート調査地点(G.1~G.12)



この地図は、松阪市提供の地形図データ及び「平成27年国勢調査(町丁・字等別境界データ)」(総務省)を使用し、株式会社日本技術開発が編集・加工したものである。

図 7-10-1.1 植生調査地点図

## (2) 植生

### ① 植生（植物群落）の分布状況

対象事業実施区域及びその周辺で確認された植物群落は、森林植生 7 群落、草地・池沼植生 8 群落、その他の土地利用 10 タイプの計 25 群落（タイプ）であり、この中に、重要な植物群落は確認されなかった。

### ② 植生自然度

植生自然度 10 には「ヒシ群落」が該当し、地内外 2 ケ所の調整池の水面に繁茂し、抽水植物と相まって水鳥の生息場所としても機能している。植生自然度 9 には「マルバヤナギ群落」、「ハンノキ群落」が該当し、いずれも水田耕作放棄後の湿性に成立したものである。植生自然度 7 に該当する「コナラ群落」は山林の広い範囲に分布し、現最終処分場周辺のコナラ群落は下草刈りによる維持管理が行われており、手入れのなされた山林が分布する。

なお、確認された植物群落の中に、植生自然度の高い植生は分布するものの、学術上、保全すべき重要な植物群落は確認されなかった。

## 3. 予測・環境保全措置及び評価

植物に係る予測概要は表 7-10-1.3 に示すとおりである。

表 7-10-1.3 陸生植物に係る予測手法

影響要因	予測項目	予測事項	予測方法	予測地域	予測対象時期等
工事の実施	植物相、植物群落（植生自然度）、	工事の実施による影響	予測対象種の生育環境や生育地と事業計画を重ね合わせ、その改変程度を整理し、予測対象種の生育に及ぼす影響の程度を事例の引用若しくは解析により、定性的に予測	調査地域と同様の地域	工事による影響が最大となる時期
土地又は工作物の存在及び供用	重要な種及び群落、注目すべき生育地	土地又は工作物の存在及び供用による影響			事業活動が定常状態となる時期

### (1) 予測結果

#### ① 植物（植物相）及びそれらの生育環境への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

工事の実施に伴い、対象事業実施区域の山林（コナラ群落、モウソウチク植林、スギ・ヒノキ植林）、及び谷津田（ハンノキ群落、ミゾソバ群落、イヌビエ群落、ヨシ群落、セイタカアワダチソウ群落）ともに面積が減少する。これにより残置森林内の樹林や林縁部に生育するシダ類、草本類、木本植物などは残存するが、湿性地进行を愛好する谷津田内の草本類の多くは消失するものと考えられる。

供用時には、残置森林として 5.45ha の山林が残存し、コナラ群落、モウソウチク植林、スギ・ヒノキ植林の分布面積は減少するが、各群落を構成する高木類から草本植物、シダ植物は生育するものと考えられる。谷津田は対象事業実施区域北側に一部残り、ハンノキやミゾソバなどの一部の湿生植物が生育するものと考えられる。谷津田の消失に伴う代替環境として対象事業実施区域東側の谷津

田を保全エリアとする。保全エリアには植生自然度の高いハンノキ群落、マルバヤナギ群落、ヨシ群落  
が分布し、各群落を構成する湿生草本植物や木本類などが生育する。供用後に処分用地や調整池、  
道路など出現するが、残置森林及び保全エリアを含む谷津田の生育環境への影響は小さいものと思  
えられる。

また、新最終処分場と残置森林との境界部は、同様な草刈りなどの維持管理が行われ、調整池周辺  
の造成緑地は周辺環境と調和した樹林環境を形成することから、新たな植物の生育環境の創出・形成  
されるものと考えられる。

## ② 植生（植物群落）への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

工事の実施に伴い、対象事業実施区域の山林、及び谷津田ともに面積が減少し、谷津田最奥部にハ  
ンノキ群落、ミゾソバ群落、ヨシ群落の一部が残存する。

供用時には、残置森林として5.45haの山林が残存し、コナラ群落、モウソウチク植林、スギ・ヒ  
ノキ植林がパッチ状に分布する。その一方で、ハンノキ群落などは一部が現状のまま分布するが、大  
部分が消失する谷津田の代替環境として対象事業実施区域東側を保全エリアとする。保全エリアに  
は植生自然度の高いハンノキ群落、マルバヤナギ群落、ヨシ群落が含まれる。供用後に処分用地や調  
整池などが出現するが、残置森林に残る森林植生、保全エリアの湿性植生群落への影響は小さいもの  
と考えられる。

## ③ 重要な種への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

重要な種に該当する植物の工事中及び供用後の予測結果を表7-10-1.4に示す。

表 7-10-1.4 植物の重要な種の予測結果概要

No.	種名	確認場所	確認状況	予測結果概要
1-1	マツバラン	内	対象事業実施区域内のコナラ林で5個体を確認。	工事中:影響なし 供用後:影響なし
1-2		外	対象事業実施区域外南側の竹林で5個体を確認。	
1-3		外	対象事業実施区域外東側の竹林で100個体を確認。	
2-1	ササユリ	内	対象事業実施区域内の高圧鉄塔敷地内で1個体を確認。	工事中:影響なし 供用後:影響なし
3-1	エビネ属の一種	内	対象事業実施区域内のスギ・ヒノキ林で3個体を確認。	工事中:影響あり ※個体移植による環境保全措置を計画
4-1	ギンラン	内	現最終処分場内の落葉広葉樹林で1個体を確認。	工事中:生息個体の消失 ※個体移植による環境保全措置を計画 供用後:影響なし ※維持管理による環境保全措置を計画
5-1	キンラン	外	上川遊歩道公園の調整池近くの林縁部で1個体を確認。	工事中:影響は小さい 供用後:影響は小さい ※維持管理による環境保全措置を計画
5-2		外	上川遊歩道公園の林縁部で1個体を確認。	
5-3		内	対象事業実施区域内のコナラ林で7個体を確認。	
5-4		内	現最終処分場内の落葉広葉樹林で4個体を確認。	
5-5		外	対象事業実施区域外南側の竹林林縁で1個体を確認。	
6-1	キンラン属の一種	内	現最終処分場内の落葉広葉樹林で1個体を確認。	工事中:地域個体群への影響は小さい 供用後:影響は小さい
7-1	ウスキムヨウラン	内	現最終処分場内の落葉広葉樹林で5個体を確認。	
7-2		内	対象事業実施区域内のコナラ林尾根部で1個体を確認。	
7-3		内	対象事業実施区域内のコナラ林尾根部(山道)で4個体を確認。	
7-4		内	対象事業実施区域内のコナラ林山頂付近で6個体を確認。	
7-5		内	対象事業実施区域内のコナラ林山斜面で5個体を確認。	
7-6		内	対象事業実施区域内のコナラ林で1個体を確認。	
8-1	ムヨウラン属の一種	内	対象事業実施区域内のコナラ林山頂付近で5個体を確認。	
8-2		内	対象事業実施区域内のコナラ林尾根部で8個体を確認。	
8-3		外	対象事業実施区域外南側のモウソウチク林で4個体を確認。	
8-4		内	対象事業実施区域内のコナラ林尾根部で1個体を確認。	
8-5		外	対象事業実施区域外南側のコナラ林で3個体を確認。	
8-6		外	対象事業実施区域外南側のコナラ林で2個体を確認。	
8-7		内	対象事業実施区域内の常緑広葉樹が混生するコナラ林で5個体を確認。	
8-8		内	対象事業実施区域内のヒノキ林尾根部で4個体を確認。	
8-9		外	対象事業実施区域外北側のモウソウチク林で2個体を確認。	
9-1	ミズギボウシ	外	対象事業実施区域外東側の谷津田で5個体を確認。	工事中:影響なし 供用後:影響なし
10-1	コガマ	内	対象事業実施区域内の湿地化した水田跡地(谷津田③)で10個体を確認。	工事中:地域個体群の消失 ※個体移植による環境保全措置を計画 供用後:保全エリアにて個体を保全
10-2		内	対象事業実施区域内の湿地化した水田跡地(谷津田③)で30個体を確認。	
10-3		内	対象事業実施区域内の湿地化した水田跡地(谷津田③)で28個体を確認。	
10-4		内	対象事業実施区域内の湿地化した水田跡地(谷津田②)で30個体を確認。	
11-1	マツカサススキ	内	対象事業実施区域内の湿地化した水田跡地(谷津田③)で1個体を確認。	工事中:地域個体群への影響は小さい 供用後:地域個体群への影響は小さい
11-2		内	対象事業実施区域内の湿地化した水田跡地(谷津田③)で1個体を確認。	
11-3		内	対象事業実施区域内の湿地化した水田跡地(谷津田③)で2個体を確認。	
11-4		外	対象事業実施区域外西側の道路脇の湿生草地で8個体を確認。	
12-1	ミズマツバ	外	対象事業実施区域外西側の水田内で1個体を確認。	工事中:影響なし 供用後:影響なし
12-2		外	対象事業実施区域外西側の水田内で約100個体を確認。	
12-3		外	対象事業実施区域外西側の水田内で8個体を確認。	
13-1	コモウセンゴケ	外	上川遊歩道公園駐車場脇の斜面(湿生地)で約1000個体を確認。	工事中:影響なし 供用後:影響なし
14-1	ヤナギイノコヅチ	内	対象事業実施区域内の湿地化した水田跡地(谷津田③)で1個体を確認。	工事中:地域個体群への影響は小さい 供用後:地域個体群への影響は小さい
14-2		外	対象事業実施区域外東側の谷津田(放棄水田)で7個体を確認。	
14-3		外	対象事業実施区域外東側のハンノキ林で20個体を確認。	
14-4		内	対象事業実施区域内の湿地化した水田跡地(谷津田②)で1個体を確認。	
15-1	タチカモメヅル	外	対象事業実施区域外西側の水田畦で8個体を確認。	工事中:地域個体群への影響は小さい 供用後:影響は小さい
15-2		内	対象事業実施区域内の谷津田林縁部(山道際)で15個体を確認。	
15-3		内	対象事業実施区域内の湿地化した水田跡地(谷津田③)で3個体を確認。	
15-4		内	対象事業実施区域内の湿地化した水田跡地(谷津田③)で3個体を確認。	
15-5		内	対象事業実施区域内に位置するコナラ林林縁で5個体を確認。	
15-6		外	対象事業実施区域外西側の水田畦で7個体を確認。	
16-1	イヌセンブリ	外	対象事業実施区域外西側の放棄水田内で4個体を確認。	工事中:影響なし 供用後:影響なし
17-1	アイナエ	内	現最終処分場内の造成地(草地)で約100個体を確認。	工事中:影響なし 供用後:影響なし
17-2		外	上川遊歩道公園内の低葎草地で約150個体を確認。	
17-3		外	対象事業実施区域西側の水田内で約200個体を確認。	
18-1	スズメハコバ	外	対象事業実施区域西側の水田内で100個体を確認。	工事中:影響なし 供用後:影響なし
19-1	キキョウ	内	対象事業実施区域内の谷津田のネザサ草地で1個体を確認。	工事中:影響は小さい 供用後:影響は小さい
20-1	オケラ	内	現最終処分場内のコナラ林尾根部で2個体を確認。	工事中:影響なし 供用後:影響なし
20-2		内	現最終処分場内のコナラ林林縁部で5個体を確認。	
20-3		内	対象事業実施区域内の谷津田山道沿い(林縁部)で約100個体を確認。	
20-4		内	対象事業実施区域内の谷津田山道沿い(林縁部)で約30個体を確認。	
20-5		内	対象事業実施区域内にコナラ林林縁部で1個体を確認。	

注)内:対象事業実施区域内 外:対象事業実施区域外

(2) 環境保全措置

以下に示す環境保全措置を実施する。

表 7-10-1.5(1) 植物に係る環境保全措置①の検討結果

影響要因	工事の実施
環境保全措置	事業実施に伴い影響が生じる生育個体及び地域個体群について、類似環境への移植・保全を図る。移植対象種は、エビネ属の一種、ギンラン、コガマの3種である。なお、ギンランについては、移植後の生育環境を維持することが重要であり、生育環境の保全にも配慮した保全措置を講じる（表 7-10-1.21(3)参照のこと）。
環境保全措置の効果	類似環境への個体の移植により、重要な種の保全を図ることができる。
検討結果 (不確実性)	生育個体及び地域個体群への直接的な影響を軽減できるため実施する。
環境保全措置の実施計画	<p>①エビネ属の一種（改変区域に3個体生育）</p> <p>□移植先：対象事業実施区域内のスギ・ヒノキ植林（半陰地）</p> <p>□移植時期：生育地周辺の建設工事着工前の休眠期（12～2月頃）</p> <p>□モニタリング計画：移植後1年目（工事中）4～5月、6月、7～8月、10月 移植後2年目（工事中）4～5月、7～8月、10月 移植後3年目（工事中）4～5月、7～8月、10月</p> <p>②ギンラン（改変区域に1個体生育）</p> <p>□移植先：現最終処分場東側の落葉広葉樹林内</p> <p>□移植時期：建設工事着工前の生育個体開花後（4～5月頃）</p> <p>□モニタリング計画：移植後1年目（工事中）4～5月 移植後2年目（工事中）4～5月 移植後3年目（工事中）4～5月</p> <p>③コガマ（改変区域に88個体生育）</p> <p>□移植先：分散移植。①保全エリア内のハンノキ林の林縁部（15株） ②保全エリア内の高茎草地（15株）</p> <p>□移植時期：生育地周辺の建設工事着工前の休眠期（12～2月頃）</p> <p>□モニタリング計画：「エビネ属の一種」と同時期・同頻度で計画する。</p>

表 7-10-1.5(2) 植物に係る環境保全措置②の検討結果

影響要因	工事の実施
環境保全措置	事業実施に伴い影響が生じる谷津田の植物相、植物群落の代替環境として谷津田の保全エリアを確保する。
環境保全措置の効果	谷津田（湿地化した水田跡地）内に湿生林や湿生植物群落が保全でき、それらを構成する植物の生育が可能である。また、個体の保全を図る移植対象種の一部（コガマ）の移植地を確保できる。
検討結果 (不確実性)	谷津田の消失に伴う湿生植物、植物群落の代替環境及び移植対象種の生育地となるため実施する。

表 7-10-1.5(3) 植物に係る環境保全措置③の検討結果

影響要因	工事の実施
環境保全措置	山林の一部（現最終処分場東側の落葉広葉樹林）について、キンラン、ギンランなどの重要な種の生育環境を保全するため、現在、実施している林床部の草刈りによる維持管理を継続する。なお、予測結果では工事の影響により消失するのはギンラン生育地 1 個体のみで地域個体群への影響は小さいが、生育環境を保全するために実施するものである。
環境保全措置の効果	草刈り作業による維持管理により、重要な種の保全をはじめ、菌根から養分を得る混合栄養植物の特性を有するキンラン、ギンランの新たな生育個体の発芽・回復を図ることができる。
検討結果 (不確実性)	現状の維持管理作業でも林床の良好な生育環境が見られることから実施する。

(3) 評価結果

植物に係る環境保全措置を実施することから、事業者の実施可能な範囲で環境保全措置が講じられ、事業実施による植物の生育環境への影響は回避、低減されるものと評価される。

## 7-10-2 地衣類

### 1. 現況把握

#### (1) 調査内容

地衣類に係る調査内容は、表 7-10-2.1 に示すとおりである。

表 7-10-2.1 地衣類に係る調査内容

調査項目	調査方法	調査地点	調査時期
地衣類	任意観察法	対象事業実施区域及びその周辺 200m	冬季：令和 3 年 11 月 25～26 日

#### (2) 調査地点

地衣類に係る調査地点は、図 7-10-2.1 に示すとおりである。

### 2. 調査結果

#### (1) 地衣類の生育状況

対象事業実施区域及びその周辺で確認された地衣類は、1 門 7 目 9 科 23 種であり、重要な種及び外来種は確認されなかった。

生育状況を見ると、対象事業実施区域内 14 種、同区域外 21 種であり、谷津田のような湿潤かつ半陰地に生育する種は少ない傾向であった。その一方で、現最終処分場内の裸地や草地、その周辺の林縁部、さらには公園内、果樹園、墓地などに比較的多く生育個体が見られた。生育種の中では、ヒカゲウチキウメノキゴケ、トゲウメノキゴケ、コナヒメウメノキゴケ、ナミガタウメノキゴケなどが広く分布していた。

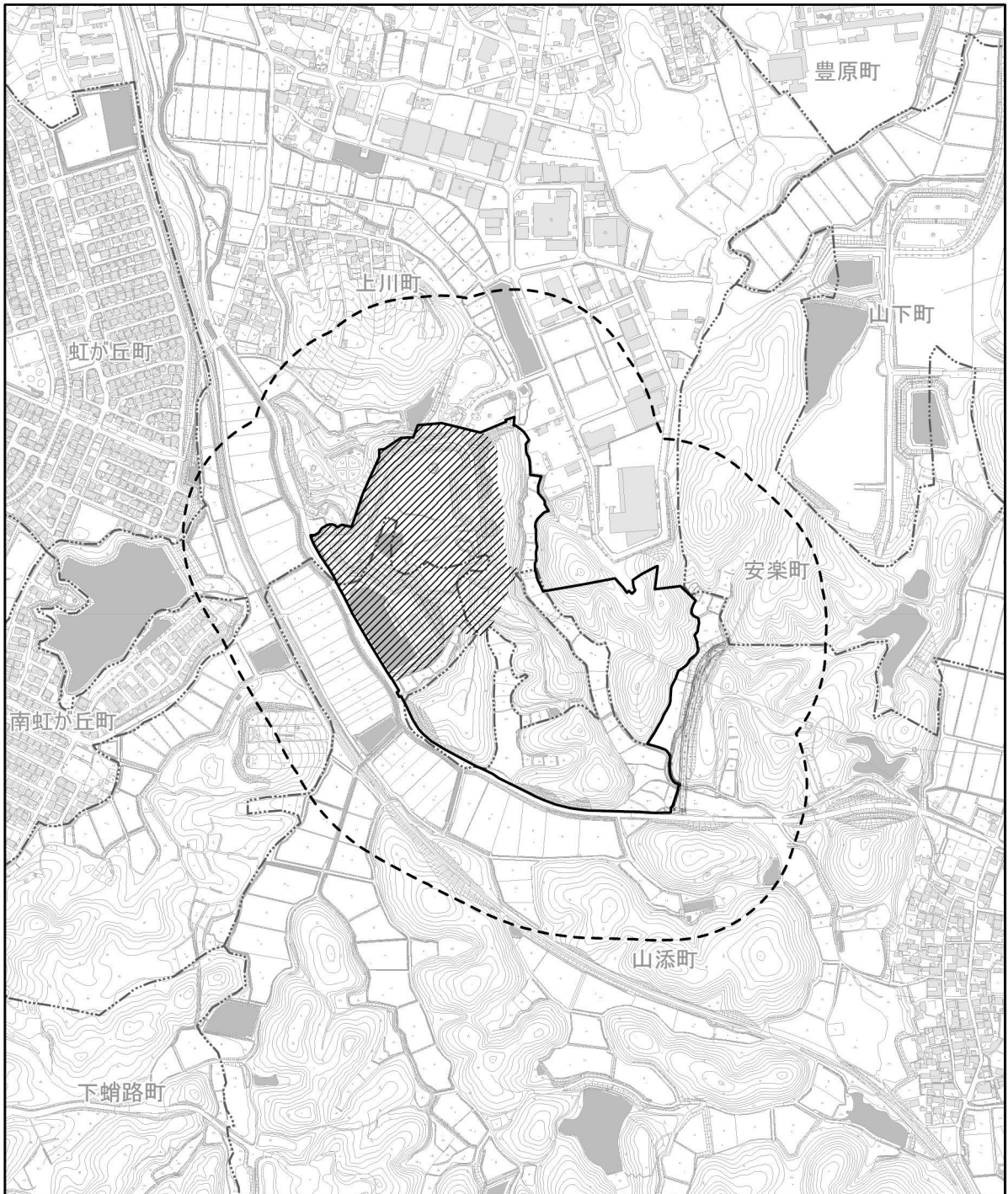
### 3. 予測・環境保全措置及び評価

地衣類に係る予測概要は表 7-10-2.2 に示すとおりである。

表 7-10-2.2 地衣類に係る予測手法

影響要因	予測項目	予測事項	予測方法	予測地域	予測対象時期等
工事の実施	地衣類相及びそれらの生育環境	工事の実施による影響	予測対象種の生育環境や生育地と事業計画を重ね合わせ、その改変程度を整理し、予測対象種の生育に及ぼす影響の程度を事例の引用若しくは解析により、定性的に予測	調査地域と同様の地域	工事による影響が最大となる時期
土地又は工作物の存在及び供用	重要な種及び注目すべき生育地	土地又は工作物の存在及び供用による影響			事業活動が定常状態となる時期







<p><b>凡例</b></p> <p>//// 現最終処分場区域</p> <p>▭ 対象事業実施区域</p> <p>--- 対象事業実施区域周辺200m</p> <p>----- 町界</p> <p><small>この地図は、松阪市提供の地形図データ及び「平成27年国勢調査(町丁・字等別境界データ)」(総務省)を使用し、株式会社日本技術開発が編集・加工したものである。</small></p>	<p>S = 1:10,000</p>  <p>0 100 200 400m</p> 
--	---

図 7-10-2.1 地衣類調査地点図 (対象事業実施区域周辺 200m)

(1) 予測結果

① 地衣類及びそれらの生育環境への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

工事の実施に伴い、生育環境の山林は約半分が改変されるため、樹林内に生育する一部は、工事に伴う樹木の伐採や建設機械による土地造成により影響を受けることになる。しかし、山林の面積は減少するものの、各植物群落は残存し、樹林内に生育する種への影響は小さいものと考えられる。また、生育状況を見ると、周辺の水田耕作地や公園・駐車場周辺などの外縁部に比較的多く生育する傾向があることから、これらの生育環境は現状のままであり、工事の実施に伴う地衣類相への影響はないものと考えられる。

供用時には、山林の一部は残置森林として残存し、コナラ群落、モウソウチク林、スギ・ヒノキ植林がパッチ状に分布する。周辺の水田耕作地、公園、駐車場、現最終処分場の改変地などの生育環境は現状のままであり、供用後に処分用地や調整池、道路など出現するが、地衣類とその生育環境への影響は小さいものと考えられる。

(2) 環境保全措置

以下に示す環境保全措置を実施する。

表 7-10-2.3 地衣類に係る環境保全措置①の検討結果

影響要因	工事の実施
環境保全措置	造成法面、造成緑地の地域性種苗（郷土樹種）による早期緑化を図り、周辺環境と調和した緑地環境の形成を図る。
環境保全措置の効果	植栽による周辺環境（山林）と調和した樹林の再生やマント群落を形成することにより、地衣類の生育環境を形成できる。
検討結果 （不確実性）	植栽による緑化が生育環境を形成できることから実施する。

(3) 評価結果

地衣類に係る環境保全措置を実施することから、事業者の実施可能な範囲で環境保全措置が講じられ、事業実施による生育環境への影響は回避、低減されるものと評価される。

## 7-10-3 蘚苔類

### 1. 現況把握

#### (1) 調査概要

蘚苔類に係る調査内容は、表 7-10-3.1 に示すとおりである。

表 7-10-3.1 蘚苔類に係る調査内容

調査項目	調査方法	調査地点	調査時期
蘚苔類	任意観察法	対象事業実施区域及びその周辺 200m	冬季：令和 3 年 11 月 25～26 日

#### (2) 調査地点

蘚苔類に係る調査地点は、図 7-10-3.1 に示すとおりである。

### 2. 調査結果

#### (1) 蘚苔類の生育状況

対象事業実施区域及びその周辺で確認された蘚苔類は、3 門 17 目 38 科 57 種であった。このうち、重要な種は、イチョウウキゴケが該当する。

生育状況を見ると、現最終処分場内の埋立地では、市街地周辺でも比較的良好に見られるゼニゴケやネジクチゴケ、ギンゴケが生育し、植栽のソメイヨシノの根元周辺には、エゾスナゴケやハイゴケなどが確認された。対象事業実施区域内の山林では、土壌が露出するような場所にはジャゴケやチャボホラゴケモドキ、アカイチイゴケなどが確認された。また、樹林内に点在する倒木にはクチキゴケやホソバオキナゴケなどが、谷津田のハンノキにはヒメミノリゴケやフルノコゴケ、ヒロハツヤゴケなどが見られた。

対象事業実施区域外の山林でも倒木にはジャゴケやヒメミノリゴケなどが見られたほか、刈り取り後の水田耕作地ではイチョウウキゴケが、畦周辺ではヒメジャゴケ、ウロコゼニゴケ、コウライイチイゴケなどが確認された。さらに、公園内の植栽木にはフルノコゴケ、サヤゴケ、ヒナノハイゴケなどが見られ、全体としては、山林から水田耕作地、公園と多様な環境に分布し、暖温帯に生育する種が多く見られた。

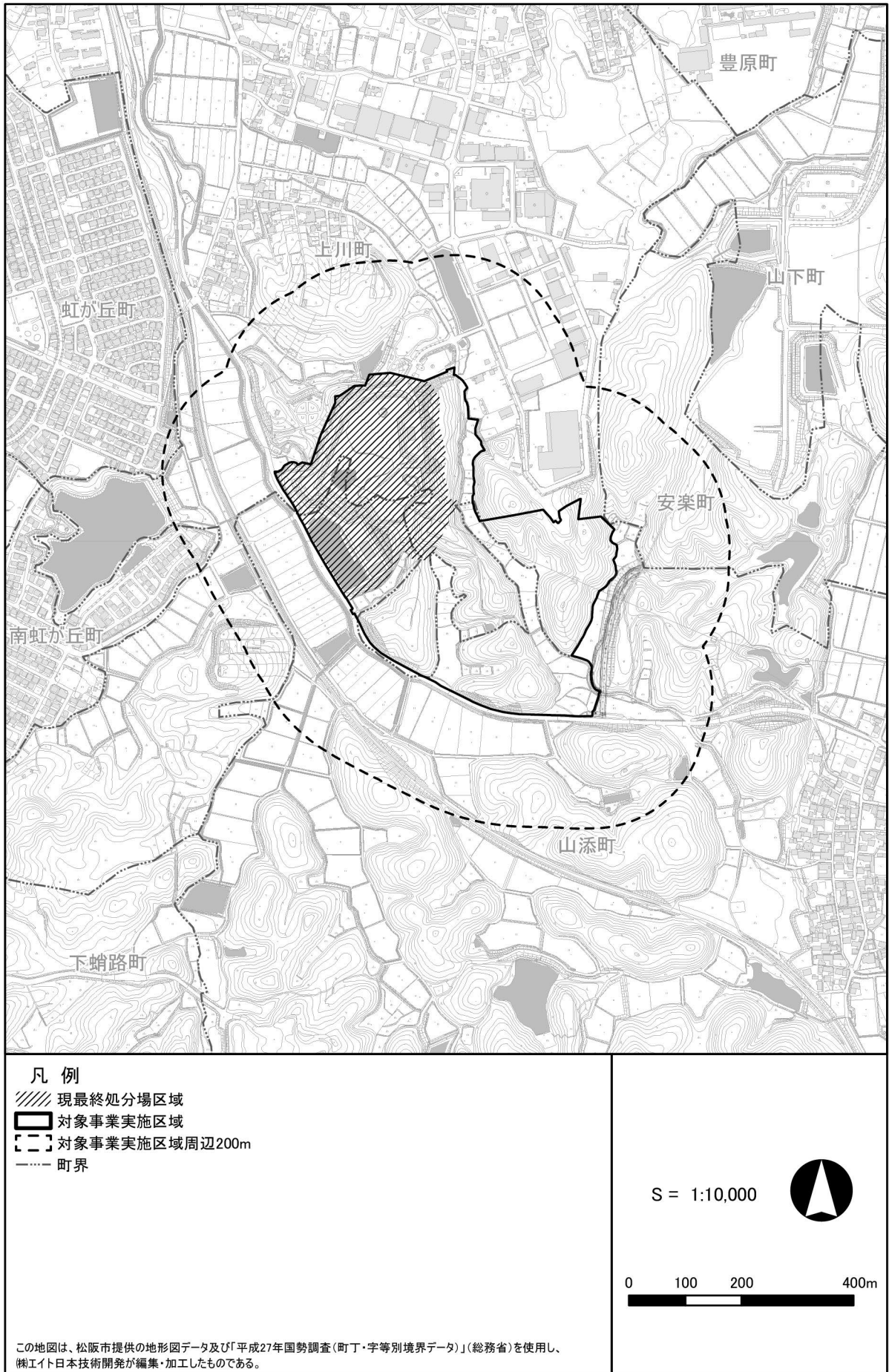


図 7-10-3.1 蕨苔類調査地点図 (対象事業実施区域周辺 200m)

### 3. 予測・環境保全措置及び評価

蘚苔類に係る予測概要は表 7-10-3.2 に示すとおりである。

表 7-10-3.2 蘚苔類に係る予測手法

影響要因	予測項目	予測事項	予測方法	予測地域	予測対象時期等
工事の実施	蘚苔類相及びそれらの生育環境	工事の実施による影響	予測対象種の生育環境や生育地と事業計画を重ね合わせ、その改変程度を整理し、予測対象種の生育に及ぼす影響の程度を事例の引用若しくは解析により、定性的に予測	調査地域と同様の地域	工事による影響が最大となる時期
土地又は工作物の存在及び供用	重要な種及び注目すべき生育地	土地又は工作物の存在及び供用による影響			事業活動が定常状態となる時期

#### (1) 予測結果

##### ① 蘚苔類及びそれらの生育環境への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

工事の実施に伴い、生育環境の山林は約半分が改変され、樹林内の生育個体の一部は、樹木の伐採や建設機械による土地造成の影響を受けるが、各植物群落は残存し、遷移の過程で生育環境となり得る倒木なども発生することから、樹林内に生育する種への影響は小さいものと考えられる。また、現況の生育状況から周辺の水田耕作地や公園周辺など多様な環境に広く分布している。これらの生育環境は現状のままであり、工事の実施による蘚苔類相への影響は小さいものと考えられる。

供用時には、山林の一部は残置森林として残存し、コナラ群落、モウソウチク林、スギ・ヒノキ植林がパッチ状に分布する。周辺の水田耕作地、公園、駐車場、現最終処分場の改変地などの生育環境は現状のままであり、供用後に処分用地や調整池、道路など出現するが、蘚苔類とその生育環境への影響は小さいものと考えられる。

##### ② 重要な種への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

重要な種の予測結果を表 7-10-3.3 に示す。

表 7-10-3.3 蘚苔類の重要な種の予測結果概要

No.	確認場所	確認状況	予測結果概要
1-1	外	対象事業実施区域外西側の水田耕作地内で多数生育する。生育面積0.9×9m	工事中：影響なし 供用後：影響なし
1-2	外	対象事業実施区域外南西側の水田耕作地内で1個体を確認。	
1-3	外	対象事業実施区域外南西側の水田耕作地内に24個体を確認。	

(2) 環境保全措置

以下に示す環境保全措置を実施する。

表 7-10.3.4 蘚苔類に係る環境保全措置①の検討結果

影響要因	工事の実施
環境保全措置	造成法面、造成緑地の地域性種苗（郷土樹種）による早期緑化を図り、周辺環境と調和した緑地環境の形成を図る。
環境保全措置の効果	植栽による周辺環境（山林）と調和した樹林の再生やマント群落を形成することにより、蘚苔類の生育環境を形成できる。
検討結果 (不確実性)	植栽による緑化が生育環境を形成できることから実施する。

(3) 評価結果

蘚苔類に係る環境保全措置を実施することから、事業者の実施可能な範囲で環境保全措置が講じられ、事業実施による生育環境への影響は回避、低減されるものと評価される。

## 7-10-4 キノコ類

### 1. 現況把握

#### (1) 調査内容

キノコ類に係る調査内容は、表 7-10-4.1 に示すとおりである。

表 7-10-4.1 キノコ類に係る調査内容

調査項目	調査方法	調査地点	調査時期
キノコ類	任意観察法	対象事業実施区域及びその周辺 200m	春季：令和3年4月27～28日 秋季：令和3年10月14～15日

#### (2) 調査地点

キノコ類に係る調査地点は、図 7-10-4.1 に示すとおりである。

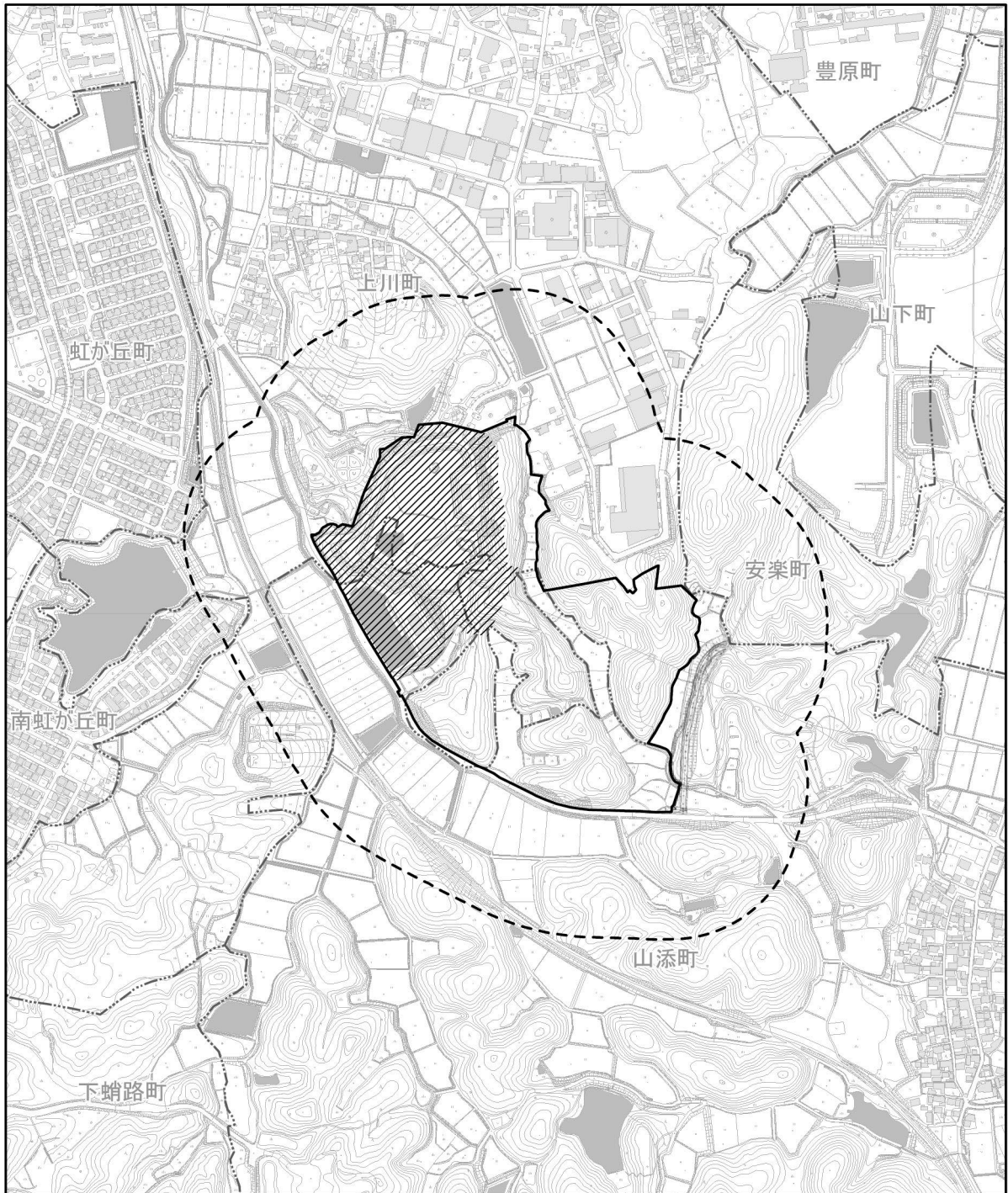
### 2. 調査結果





#### (1) キノコ類の生育状況

対象事業実施区域及びその周辺で確認されたキノコ類は、2門15目46科111種であった。このうち、重要な種にはソライロタケが該当する。外来種は確認されなかった。

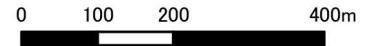
季節別の確認状況では、春季47種、秋季91種であり、春季は調査実施日前までしばらく晴天に恵まれたため、林床が乾燥気味であったが、タバコウロタケ目やタマショレイタケ目の触感が硬めのキノコ類などが確認された。

生育状況をみると、水田耕作地や林縁部の草地にはキコガサタケ、ヒメシロフクロタケが、落葉広葉樹林（コナラ林）やスギ・ヒノキ植林内の倒木や立ち枯れ木にはヒロハチャヒラタケ、センベイタケ、ハナビラニカワタケなどが生育し、林床の腐植土にはハダイロガサ、クサウラベニタケ、ユキラッパタケなどが見られた。また、現最終処分場内の埋立地ではキコガサタケ、ヒメシロフウタケが、同処分場の林縁部や林内ではカワラタケ、キチチタケ、ミヤマチャウロコタケ、モミジウロコタケが生育し、これらの種は周辺部の山林でも見られた。



- 凡例
-  現最終処分場区域
  -  対象事業実施区域
  -  対象事業実施区域周辺200m
  -  町界

S = 1:10,000



この地図は、松阪市提供の地形図データ及び「平成27年国勢調査(町丁・字等別境界データ)」(総務省)を使用し、株式会社日本技術開発が編集・加工したものである。

図 7-10-4.1 キノコ類調査地点図 (対象事業実施区域周辺 200m)



### 3. 予測・環境保全措置及び評価

キノコ類に係る予測概要は表 7-10-4.2 に示すとおりである。

表 7-10-4.2 キノコ類に係る予測手法

影響要因	予測項目	予測事項	予測方法	予測地域	予測対象時期等
工事の実施	キノコ類相及びそれらの生育環境	工事の実施による影響	予測対象種の生育環境や生育地と事業計画を重ね合わせ、その改変程度を整理し、予測対象種の生育に及ぼす影響の程度を事例の引用若しくは解析により、定性的に予測	調査地域と同様の地域	工事による影響が最大となる時期
土地又は工作物の存在及び供用	重要な種及び注目すべき生育地	土地又は工作物の存在及び供用による影響			事業活動が定常状態となる時期

#### (1) 予測結果

##### ① キノコ類及びそれらの生育環境への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

工事の実施に伴い、生育環境の山林は約半分が改変され、樹林内の生育個体の一部は、樹木の伐採や建設機械による土地造成の影響を受けるものと考えられる。山林面積は減少するものの各植物群落は残存し、遷移の過程で好適な生育環境となる倒木も発生するものと考えられる。また、現況の生育状況から周辺の現最終処分場予定及びその周辺や公園・駐車場周辺の生育環境は現状のままであり、工事の実施によるキノコ類相への影響は小さいものと考えられる。

供用時には、山林の一部は残置森林として残存し、コナラ群落、モウソウチク林、スギ・ヒノキ植林がパッチ状に分布する。周辺の水田耕作地、公園・駐車場、現最終処分場の改変地などの生育環境は現状のままであり、供用後に処分用地や調整池、道路など出現するが、キノコ類とその生育環境への影響は小さいものと考えられる。

##### ② 重要な種への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

重要な種の予測結果を表 7-10-4.3 に示す。

表 7-10-4.3 キノコ類の重要な種の予測結果概要

No.	確認時期	確認場所	確認状況	予測結果概要
1-1	秋季	外	対象事業実施区域外南東側の竹林で2個体を確認。	工事中:影響なし 供用後:影響なし
1-2	秋季	外	対象事業実施区域外東側の竹林で3個体を確認。	

注 内:対象事業実施区域内 外:対象事業実施区域外

#### (2) 環境保全措置

以下に示す環境保全措置を実施する。

表 7-10.4.4 キノコ類に係る環境保全措置①の検討結果

影響要因	工事の実施
環境保全措置	造成法面、造成緑地の地域性種苗（郷土樹種）による早期緑化を図り、周辺環境と調和した緑地環境の形成を図る。
環境保全措置の効果	植栽による周辺環境(山林)と調和した樹林の再生やマント群落を形成することにより、キノコ類の生育環境を形成できる。
検討結果 (不確実性)	植栽による緑化が生育環境を形成できることから実施する。

(3) 評価結果

キノコ類に係る環境保全措置を実施することから、事業者の実施可能な範囲で環境保全措置が講じられ、事業実施による生育環境への影響は回避、低減されるものと評価される。